

2022 年度教育研究活動報告用紙（様式 9）

氏名	中原 智美	職名	講師	学位	修士（保健学）（山口大学 2011 年）
----	-------	----	----	----	----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
成人看護学， 遺伝看護学	慢性期看護， 糖尿病教育・看護， 生活習慣病， 多因子遺伝， 遺伝看護

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> ・慢性疾患をもつ患者・家族への看護に関する研究 ・2型糖尿病の遺伝に関する知識が患者の自己管理行動および看護に及ぼす影響についての研究 ・初年次教育の学修効果に関する研究

担当授業科目																														
<table border="0"> <tr> <td>緩和・がん看護学</td> <td>(看護学科)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>成人看護学演習</td> <td>(看護学科)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>成人慢性期看護方法論</td> <td>(看護学科)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>成人慢性期看護学実習</td> <td>(看護学科)</td> <td>2021 後期～2022 前期 / 2022 後期～2023 前期</td> </tr> <tr> <td>看護のための臨床検査</td> <td>(看護学科)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>初年次セミナー I</td> <td>(看護学科)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>初年次セミナー II</td> <td>(看護学科)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護総合演習</td> <td>(看護学科)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護総合実習</td> <td>(看護学科)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護学</td> <td>(栄養学科)</td> <td></td> </tr> </table>	緩和・がん看護学	(看護学科)		成人看護学演習	(看護学科)		成人慢性期看護方法論	(看護学科)		成人慢性期看護学実習	(看護学科)	2021 後期～2022 前期 / 2022 後期～2023 前期	看護のための臨床検査	(看護学科)		初年次セミナー I	(看護学科)		初年次セミナー II	(看護学科)		看護総合演習	(看護学科)		看護総合実習	(看護学科)		看護学	(栄養学科)	
緩和・がん看護学	(看護学科)																													
成人看護学演習	(看護学科)																													
成人慢性期看護方法論	(看護学科)																													
成人慢性期看護学実習	(看護学科)	2021 後期～2022 前期 / 2022 後期～2023 前期																												
看護のための臨床検査	(看護学科)																													
初年次セミナー I	(看護学科)																													
初年次セミナー II	(看護学科)																													
看護総合演習	(看護学科)																													
看護総合実習	(看護学科)																													
看護学	(栄養学科)																													

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
<p>授業科目名【 緩和・がん看護学 】</p> <p>主な担当内容は、がん看護（6 コマ）、症状緩和のためのマネジメント（1 コマ）である。疾患・治療による影響のメカニズムやなりゆきを明確にし、看護の根拠を理解しやすいように組み立て、できるだけ具体的な看護方法を示しながら講義した。また、がんサバイバーが治療と生活を両立することをサポートするための視点にも重点を置き、法制度や社会資源、チーム連携のあり方を具体的に紹介したり、実際の患者の声（大規模調査のデータ）を題材としたディスカッションを行ったりした。</p> <p>講義内容の理解を深めるための工夫として、疾患・症状・治療などのイメージが難しいものについては画像を見せたり、医療ドラマなどの話題を盛り込んだり、講義内容と関連のある最新ニュースや新聞記事を紹介するなど、理解を深めるための工夫を行った。</p> <p>講義終了後には、学び・疑問を記入してもらい、次の講義の冒頭で質問への回答や感想を紹介し、お互いの考え・疑問を共有することにより関心を高められるように努めた。</p>
<p>授業科目名【 成人看護学演習 】</p> <p>看護過程演習では、慢性期疾患（肝硬変）の事例を通して看護過程の展開（12 コマ）を主担当として講義した。反転学習として事前に課題に取り組みせ、自分が解決したい疑問点を整理したうえで講義に臨めるように工夫した。また、ポイントとなる点は繰り返し説明した。講義前後に教員 8 名で指導内容を共有し、講義の指示内容については、教員間で統一をはかった。</p>

グループワークを円滑に行うために適切な人数を検討し、1グループは5名に設定した。個別性のある看護が導き出せるよう、担当グループを巡回しながら提出物へのコメントを細やかに行った。必要時には個別面談を行いフォローアップした。

技術演習では、患者役・看護師役として患者教育の体験ができるように工夫した。それぞれ、技術の手技習得のみならず、看護過程事例を題材として患者の生活改善や行動変容のために必要な教育や心理面への配慮すべき点を考えながら個別性に沿った援助（看護計画）を導きだせるように指導を行った。血糖自己測定やインスリン自己注射の技術については、予習・復習のためにデモンストレーション動画を繰り返し見られるようにClassroomに掲載した。

授業科目名【 成人慢性期看護方法論 】

主に、内分泌・代謝機能／腎・排泄機能／生体防御機能に障害をもつ人の看護（計8コマ）を担当した。機能障害によっておこる身体面への影響、疾病のなりゆき、生活面や心理・社会的側面でのなりゆきを予測してアセスメントする力を養うためのトレーニングとして、講義で取り上げた各疾患のアセスメントの視点をふまえた観察項目を考えることを課題として課し、発表により意見を共有するなどの工夫を行った。また、看護目標、看護のポイント、症状・苦痛の緩和やコントロール方法、心理・社会面への支援方法などはできるだけ具体的に示し、根拠立てて理解しやすいように講義の流れを組み立てた。

学習内容への関心を高め、授業への集中力を高めるために、講義終了後に記入してもらった学びや質問を次の講義の冒頭で共有したり、単元（2～3コマ）ごとに小テストを行いこまめに振り返りができるようにした。講義の間に空く際には課題を組み入れ、前回内容の復習、次の講義の予習につながるように工夫した。

授業科目名【 成人慢性期看護学実習 】

本年度は毎日3時間（午前）の時間制限付きで臨地実習を行うことができた。感染症拡大の影響により、時期によって病棟に上がれないこともあったが、カルテ閲覧のみや学内での実習に切り替えるなど、状況に合わせて実習目標が達成できるように調整した。臨地実習やケア実践の経験がほとんどできていない学年であったため、できるだけ臨地へ行けるよう、ケア実践の機会を多く確保できるように努めた。実践することでの気づき、失敗からの学びを大切に自己や他者を深く理解できるように働きかけた。

実習中の実践、カンファレンスや最終面談においては、次の3点を意識して直接的・間接的に指導を行った。

- ①患者を全人的に捉え、これまでのライフスタイルや価値観を尊重した個別性のある看護実践
- ②看護展開を通して一貫性・整合性のある思考
- ③学生の強みと今後の課題

学習面、精神面などで特に指導を要す学生に対してはこまめに個別面談を行い、実習目標が達成できるよう個々の問題に応じた指導・支援を行った。また、実習内容、実習場所、実習方法の調整を行い、実習がスムーズに運ぶように努めた。

授業科目名【 看護のための臨床検査 】

本科目では、基盤となる血液検査、画像検査の基本を押さえたうえで、系統別に検査の特徴、実施法、看護上の注意点が理解できるように構成した。主として、内分泌・代謝系／腎・泌尿器系／血液内科系／皮膚科・耳鼻科・眼科系の検査、技術演習（計5コマ）を担当した。検査の理解だけでなく、検査データから患者の病態を正しくアセスメントできるよう、まずは基本的なことや基準値を覚えることを促進する働きかけとして、講義の初めに知識確認テストを行った。また、終了前にはその日の内容について小テストを行い、毎回の講義に集中できるように工夫した。

技術演習では、3つの項目について検査方法、結果の判定、看護上の留意点が理解できるように構成した。

授業科目名【 初年次セミナーⅠ 】

- ①グループワークの円滑化とグループワークへのコミットメントを意識させることを目的とし、アイスブレイキングの時間を昨年度よりさらに増幅し、グループワークの成果を競わせるようなゲーム型の活動を導入した。
- ②本科目の根幹をなす「書く力」養成のために、一貫して、問い立て→根拠をもった論理展開→新規意見の提示という構造を意識させることに重点を置いた。そのために、「問いの発見と構想展開図」「レポート作成計

画書」の2種類のシートを新たに作成して、活用を促した。特に「問い立て」(リサーチクエスチョン)の設定はレポート作成の起点になるため重点を置き、講義も追加した。

③担当教員5名で、講義前後に講義の内容・指導方法について詳細な打ち合わせをした。講義の指示内容については、教員間で統一をはかった。

授業科目名【 初年次セミナーⅡ 】

①初年次セミナーⅡでは、初年次セミナーⅠで学修した基礎的知識・スタディスキルズの強化を図り、プレゼンテーションの機会を設けた。

②初年次セミナーⅠで用いた課題発見やレポート作成計画書は引き続き活用し、グループ小冊子の構成を考えるためのワークシートについては、小冊子全体を効果的に捉えられるようにブラッシュアップした。

③発表準備の時間を十分確保できるように、グループ小冊子作成までの流れを見直し、プレゼンテーションに充てる時間を1コマ増やした。

④学習内容・進度にあわせて2コマ続きの講義も交えた進行を行い、発表・まとめを12月中に終了するようにした。そのため学生はポートフォリオ提出までの時間的余裕ができた。

⑤プレゼンテーションの評価表について、見直し・修正を行った。

⑥発表時の評価は、担当者5名で実施した。複数の教員による評価で、より客観的な評価を行うようにした。学生・教員による評価をもとに、優秀賞を選出し発表の場を設けた。

授業科目名【 看護総合演習〔慢性期・終末期〕 】

自己課題に基づいたテーマの設定、および根拠ある看護実践のために文献検索を行い、文献や理論と比較しながら科学的な視点をもってテーマに沿った看護を追求することで今後の課題が明確になるよう指導した。レポート作成時は、研究論文の形式を意識して構成できるように、個別に繰り返し添削指導を行った。また、発表会を行うことでそれぞれの学びを共有でき、最終的に冊子も作成して達成感を感じられるように図った。

そのほか、ゼミメンバーや教員間との連絡・調整などを通して学生が主体的に行動できるよう指導・助言を行った。

授業科目名【 看護総合実習〔慢性期・終末期〕 】

本年度は3時間の時間制限付きでの臨地実習であり、コロナウイルス感染症拡大の影響による急な変更等も多かったが、実習施設と学生の調整を行いながら円滑に実習できるように努めた。特に、遠隔授業を余儀なくされていた学年であり、臨地実習の経験が全く無いことをふまえて事前準備を整え、患者とのかかわり方、根拠に基づいた看護実践能力を培うことや看護実践における自己課題を明確にすることができるよう、臨地実習指導にあたった。

また、看護の質向上や互いの能力向上のために、メンバー間の連携をとりながら主体的・計画的に行動できるように指導・助言を行った。

授業科目名【 看護学 】(栄養学科)

本年度は開講されなかった。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本看護研究学会		2007年4月～現在に至る
日本糖尿病教育・看護学会		2007年5月～現在に至る
日本遺伝看護学会		2007年5月～現在に至る
日本看護科学学会		2012年7月～現在に至る
日本看護学教育学会		2013年7月～現在に至る

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) プチナース 2022年7月 号 Vol.31, No.8 (412号) 別冊付録 症状別観察 & ケア POCKET BOOK	共	2022.6	照林社	①実習中によく出会う10の症状について、何を想定して観察し、どのようなケアを行うかを解説している ②編修者名：小田正枝，山口哲朗 共著者名：姫野深雪，窪田恵子，山口哲朗，穴井めぐみ，安藤敬子，下舞紀美代，中原智美， (掲載順) ③担当部分： *9 脱水がある—脱水— (P41～P45) *10 体がだるい—全身倦怠感— (P46～P50) *総頁数 P51
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
ギラヴァンツ北九州における ・救護ボランティア (ミクニワールドスタジアム北九州に於ける試合の際、観客を対象とした救護活動) ・ホームゲームでの防災イベントでのAED・CPR講習(ステージ)	学生ボランティアのコーディネーターおよび指導、引率	2019年2月～現在に至る (2020～2022年度は新型コロナウイルス感染症の影響により活動休止中) ⇒9月11日開催

学内における活動等(役職、委員、学生支援など)

<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験対策担当 (国家試験対策として、模試の計画・準備・実施・事後分析、強化学習や補講等の計画・調整・実施・評価、学生の個別サポート、模試業者との連絡調整窓口、会計課との連絡窓口、看護師国家試験当日の引率、国家試験結果の分析など) ・2年生アドバイザー (学年全体の活動方針策定、担当学生の定期個別面談・履修指導、学業不振者や精神的サポート等の個別面談・保護者面談、学生総合支援室との連携、科目担当者との連携、遠隔授業に関するサポート、保護者懇談会の開催、ワクチン接種状況の確認など) ・看護学科種まきプロジェクト【学力向上】分科会メンバー (各学年の模試結果等からの現状分析、4年間を通じた学力向上プログラムの検討、3年次知識確認試験の検討、資料作成など) ・情報システム管理運用委員 (会議開催1回のみ)
